



平成28年4月5日

各位

会社名株式会社リボミック
代表者名代表取締役社長中村義一
(コード番号：4591 東証マザーズ)
問合せ先取締役執行役員管理部長宮崎正是
TEL. 03-3440-3303

RBM006に関する論文掲載のお知らせ

この度、当社と東京大学及び東北大学との共同研究によるオートタキシン (ATX) を阻害する核酸アプタマーに関する論文が、Nature Structural & Molecular Biology の電子版 (論文題目「Structural basis for specific inhibition of Autotaxin by a DNA aptamer」) に掲載されましたので、お知らせいたします。

ATX を阻害する核酸アプタマーは、自社創薬品目 RBM006 として、肺線維症等の治療薬として開発中です。

肺線維症は呼吸器系の重篤な疾患のひとつで、未だに十分に満足する治療法は確立されておらず、世界的に様々な標的 (疾患関連タンパク質等) を対象とした治療薬の開発が試みられています。その一つである ATX は、肺線維症の発症と悪化をもたらす主要な因子とみられる脂質メディエーターのリゾホスファチン酸 (LPA) を産生する酵素です。

当社、東京大学及び東北大学の共同研究チームは、ATX の作用を阻害するアプタマーと ATX タンパク質との複合体についての結晶構造を明らかにし、アプタマーが ATX の働き (LPA の産生) を抑える立体的なメカニズムを世界で最初に解明しました。

さらに、この知見を基にして立体構造的に ATX の作用をより強力に抑えるアプタマーをデザインし、肺線維症のモデルマウス等でその治療効果や薬理作用を確認することに成功しました。なお、このアプタマーをカバーする物質特許は既に当社が出願済みです。

本共同研究に基づいて得られた抗 ATX アプタマーは、現在、十分に満足できる治療薬のない肺線維症に対し、革新的な治療薬の開発につながると考えております。

今回、このような研究成果が世界的に権威のある欧米の一流学術雑誌に掲載されたことは、抗 ATX アプタマーの認知度を高め、また、それを創製した当社技術への評価に結びつくものと考えております。

当社は、欧米のメガファーマを対象として RBM006 のライセンス活動を展開しており、その成約に向け邁進してまいります。

上記論文内容の詳細につきましては、以下の Web ページをご覧ください

(<http://www.nature.com/nsmb/journal/vaop/ncurrent/full/nsmb.3200.html>)

本研究は、独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構 (NEDO) による「難治性炎症疾患に対する RNA アプタマー新薬の開発」等の補助金の支援を受けて行われました。

なお、本論文掲載による、平成 28 年 3 月期以降の通期業績への影響はありません。

以上